

やわらかいハードウェアの可能性を探る

再構成可能デバイスを使いやすくする研究



どんな研究？

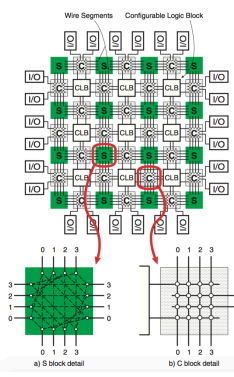
再構成可能デバイスとしてFPGA (Field Programmable Gate Array) の利用が広がっていますが、実際に大きな回路を実装しようとするときクロック分配にまつわる様々なタイミング制約問題が生じ設計を難しくしてしまいます。そこでグローバルクロックを使わない非同期式回路技術を組み合わせることで、大規模FPGAの設計を用意化する研究を進めています。

何がわかる？

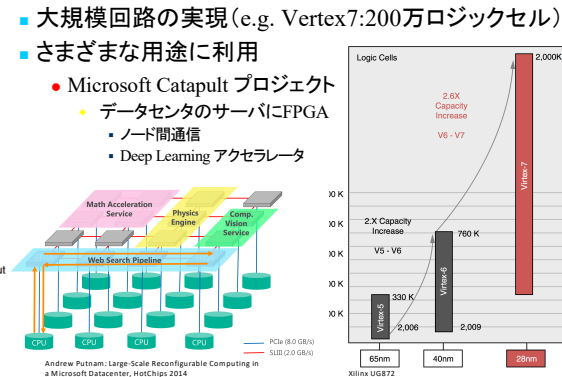
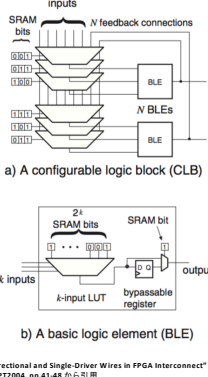
再構成可能デバイス、FPGAとは？
最近では何に使われる？
何が優れている？
問題点は？
解決のアプローチは？
非同期式回路とは？

FPGAとその応用

◆ FPGAとは？



◆ FPGAの普及



◆ 何が優れている？

- アクセラレータ
 - ソフトウェアのボトルネックをFPGA化することで大幅な高速化
 - CPU/GPUによる処理よりも電力効率が高いこともある
- 専用LSI製造よりも安価、かつ、修正・更新がいつでも可能

◆ 問題点は？

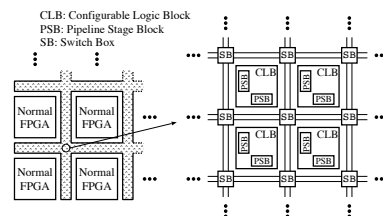
- 大規模化における問題点
 - クロック周りのタイミング制約が厳しくなる
 - クロックの分配や専用素子の使用が難しい
 - 再合成すると動かなくなることもある
 - 複数のクロックリージョンを導入する必要性増大
 - GALS (Globally Asynchronous Locally Synchronous)
 - クロックリージョン間のインターフェースが面倒

研究内容

詳しくは、下記論文を参照のこと
T.Yoneda, M.Imai: Coarse Grained Versus Fine Grained Architectures for Asynchronous Reconfigurable Devices, Proceedings of 2020 IEEE International Symposium on Asynchronous Circuits and Systems, pp.102-110, 2020.

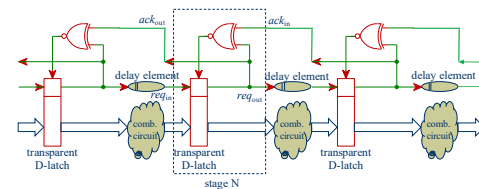
◆ 解決のアプローチ

- 小から中規模の多数の同期式コア・FPGA
- まわりを再構成可能な非同期式回路で埋める

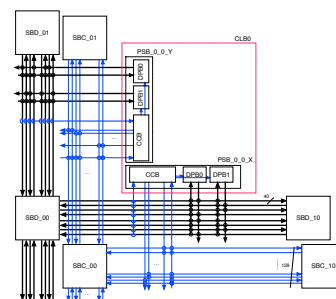


◆ 非同期式回路とは

- 大域クロック信号を用いない
- 非同期式パイプラインの例

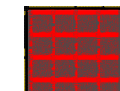


◆ CLBの構成

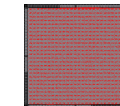


◆ 粗粒度と細粒度の比較

配置配線の様子



粗粒度 (提案手法)



細粒度 (従来手法)

データ転送速度の比較

